

ヤマユリ通信 植栽

麻生区協働推進事業 麻生ヤマユリ植栽普及会

H22. 12. 28 発行

vol. 2-3



◆もくじ◆

- 第7回 ヤマユリ鉢植え講習会（球根編）..... 1
- 鱗片による増殖の仕方／会員になって：喜び..... 2
- 人物探訪 斉藤尚武さん「さわやかで快適な住環境を……」..... 3
- 植栽地便り！“ふるさと自慢”ヤマユリ再生の峠が見えてきた！..... 4

第7回 ヤマユリ鉢植え講習会（球根編） 育成の仕方の認識が間違っていた！

去る11月22日午後2時から麻生区役所において、7回目のヤマユリの球根による鉢植え講習会を行いました。

今回も参加希望者が、定員40名を大幅に超えたために抽選となりました。これまでは、年に2回開催、春は発芽種による講習会、秋は、球根で行ってきました。

年々、参加者の予備知識が高くなってきていることが伺えました。たとえば、ヤマユリを育てた経験のある方が30%近く、ヤマユリが県花であることをご存じの方は、半数を超えていました。4年前の講習会では、育てた経験もなく、県花であることも知らない方がほとんどでしたから、私どもの活動成果の一端の現れといえるのではないのでしょうか。ヤマユリの育成の難しさを体験してこられた方などは、「土の配合も体験しなかった」などと、いっそう高い意欲が感じ取れました。

ユリの球根は、観賞用として明治のはじめから我が国の主要な輸出産品であったこと、

それも横浜港から欧米諸国に向けて多量に輸出されていたこと、しかし、今やその90%以上が輸入に頼っていることなどの説明に、皆、驚きの面持ちで講師の話に聞き入っていました。

さらに、鉢植え実習では、用土には培養土は使わないこと、肥料は不要で、こまめに殺菌殺虫が必要なことなどの説明に「ええっ、そうなの」と、これまでの認識との違いに納得顔。

午後から雨になり、実習は、室内での実施で混乱が心配されましたが、少人数の班編成と支援講師の協力で和気あいあいと順調に終了することができました。

参加最高齢者は、87歳の元気な男性。仕立てた5kgものの鉢を抱えて電車で帰宅と聞き、我々も負けず頑張らなければ・・・。

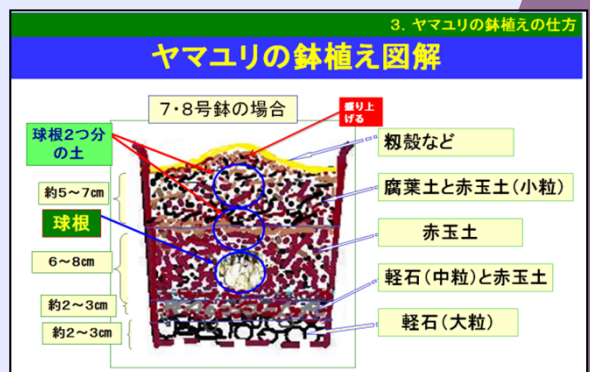
講習会参加へのアンケート結果から感想の一端を紹介しておきましょう。今回もご協力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。



▲まず、ヤマユリの特徴の受講から



▲実習講師の演示説明を聞きながら



▲鉢仕立ての用土の使い方

<参加者の変容>

◆ヤマユリのがことが細かくよくわかり、日本古来の花の大切さを痛感しました。ユリを大切にすると共に、まずは、自分の身近な自然を大切にしなければとの思いになりました。

◆生育の仕方などほとんど知らなかった。種から5年以上もかかって大輪を咲かせることがわかった。ヤマユリを大

切にしたい気持ちが強くなった。

◆山育ちだと思ってこの花が意外と神経質で育て方が難しいことを知りました。百合は、自分が一番好きな花なので、教えていただいて大変良かったと思っています。頑張って育てるつもりです。

山ユリに思う

黒川・石坂美重子

平成20年の夏、箱根でまたま入ったラリック美術館で「和の花」展をやっていた（19世紀末フランスの宝飾とガラス工芸作家）。

シーボルトが日本の植物を収獲したことはよく知られているが、ラリックも日本の植物を数多くモチーフにしていた。ササユリのペンダントやテッポウユリのブローチなど、実物を見ながら制作していたのではないと思うほどであった。当時、山ユリも多く輸出されており、初めて見た西洋の人々の驚きは想像できる。山ユリも含め、日本の植物の多様性を次の世代につなげて行きたいと思う。

(~o~)(~o~)(~o~)

喜び

(^o^)(^o^)(^o^)

ヤマユリ植栽普及会に参加して

片平・高橋雄介

知人に誘われ入会したものの、実はまったくの無粋者。学生時代の仲間からは、「なに？ ヤマユリを食う会かあ？」と揶揄されたが、当たらずとも遠からずである。

そんな私が今や“そり返って開く大ぶりの花からは、ドレスを翻して微笑む女性が浮かぶ”（朝日新聞・天声人語）という、その草姿に“ぞっこん”なのである。清楚さと妖艶さを併せ持ち、開花期のむせるような芳香にクラクラ。あな恐ろしや、ヤマユリの魔性！である。



▲ヤマユリの小さい球根が育っている

「種まきして3年、驚きの成果にびっくり！」

高石・島田由

発芽種による講習会から3年目。その年は60粒蒔いて一枚葉が26本。2年目は25本。今年5月は、高さ20cm位のものが16本。いつ咲くのか心細くナツテキマシタ。

ところが、秋になって 植え替えようと掘り出した所、ナント！百合根の形をした親指大程になっているものや、ユズの種くらいのものが沢山ありました。俄然希望が湧いてきて、今度は、鉢の数や場所に悩んでいます。

鱗片による増殖の仕方

ヤマユリを健康に育てるには種から育てるのが最適といわれていますが、開花するまでに5年もの歳月がかかるのでは、とても待ちきれない。さりとて、球根を求めるのはたやすすくないし、と思っておられる方には、鱗片による増殖をお勧めします。ほぼ3年で開花期を迎え、病害虫を予防できれば意外と簡単な方法です。

今回は、その方法をご紹介します。

<準備する資材>

①球根：（傷のない新鮮なもの）

殺菌剤液（ベンレート）に30分程度浸け、取り出して表面の水分がとれるまで陰干する。

②プランタ（穴が多数開いたもの）

③用土：赤玉土（小粒）、パーキュムライト
川砂 を同分量で配合する。
鉢底石（大粒）：少々

<プランタでの仕立て方>

①まず、鉢底石を深さ3cm程度まで入れる。

②続いて、配合土を8分目程度まで入れる。

③球根の鱗片を剥がし取る。

鱗片が大きい場合は、カッター等で縦に切り分けても良い。

④割り箸などで、鉢土の表面に鱗片を挿す穴を開ける。深さは、鱗片の3分の2程度。その穴に鱗片を差し込み(上下注意)、そっと周りの用土を寄せ、動かないように押さえる。また穴を開け鱗片を挿し土寄せというように、この作業を繰り返す。間隔は、4~5cm程度。

⑤仕立てが終わったら、鉢底から水が出る程度にかん水とベンレート500倍液を散布する。

⑥**水やりの注意**：挿した鱗片が浅いため、鱗片が動きやすいため、静かにかん水する。川砂を鱗片にかからないように掛ける方法もある。

⑦その後は、種鉢の管理と同様に乾燥に注意。



▲用土の配合（小粒赤玉土1：パーキュムライト1：川砂1）



▲プランタに鉢底石を敷き用土を入れる。



▲球根の鱗片を剥がし取る。



▲割り箸などで穴を開け、鱗片を入れる。



▲4cm程度の間隔に順に挿して完了

「さわやかで快適な住環境を創造する ボランティアグループです」

王禅寺東地域に、美しく管理された公園・緑地がいくつもあります。この美しい公園は、実は、知る人ぞ知る「木こりの会」の皆さんによる日々のボランティア活動によって蘇った公園なのです。メンバーの協調連携の見事さは、うらやましい限り。その活動ぶりを当会の代表の斉藤さんに語っていただきました。



王禅寺東在住

■緑地保全の始まり

王禅寺地域は、里山に谷が入り込んだ複雑な地形でしたが大規模な宅地開発により住宅地に生まれ変わりました。しかしこの住宅地が崩壊しないように周辺には籠口ノ池、化粧面谷などの公園やまつのき緑地、すぎの木緑地などの里山公園を残して居住環境を守るようにまちづくりが進められました。これらの緑地・公園は、川崎市の管理に委ねられましたが、管理が行き届かず、公園には侵入竹やアズマネザサが生い茂って暗く、粗大ゴミの捨て場所と化し、ホームレスが住み着き、変質者が徘徊するなど、近隣の学校では危険な場所として生徒たちを指導していました。そこで私たちは、緑地・

公園をきれいで安全な場所にする活動を行うために「木こりの会」を立ち上げました。

■協調活動で今日が

活動の基本は清掃、草刈り、竹の間伐、低木の剪定、高木の枝落とし、園内遊歩道の補修などです。毎週水曜日と土曜日の2回9時から11時までの2時間、作業を行っています。最近では1回平均12人くらいの参加があります。

公園が整備され明るくなると、子供たちの遊ぶ声が聞こえてくるようになり、木漏れ日のさす林床からキンラン・ギンラン、シュンラン、ヤブラン、ホウチャクソウなどの野草が嬉しそうに花を付けてくれます。

麻生ヤマユリ植栽普及会から講習会に誘っていただくなど、



▲春、化粧面谷公園を散策



▲アズマカンアオイ(左)ホウチャクソウ(右)などの野草が咲き乱れる。



▲休憩、ひとときの団らん

球根を分けていただいたことがきっかけで、私たちの公園にもヤマユリを再生したいと願うようになりました。

しかし、いざ植えてみると簡単には育ってくれません。適地を求めて今も試行錯誤を続けています。

■公園利用のテーマ？

整備されて公園が本来の姿を取り戻すと公園をいかに有効に

利用するかが次のテーマになりました。近隣住民の交流の場として相応しいものと、最初に始めたのが、毎週金曜日の太極拳で8年を経た今も続いています。春秋の年2回木こりの会イベントとして地元の方々に御出演いただいて琴、囃子、和太鼓などの伝統芸能、パントマイムや手品などの大道芸、ジャズボーカルやコーラスグループ、フラメンコやインドネシア舞踊などのダンス迄多彩なプログラムを提供してきました。最近では王禅寺こども文化センターとの共催にしましたので、子供さんの参加も多く世代を超えた交流の場となっています。

■そして、これから・・・

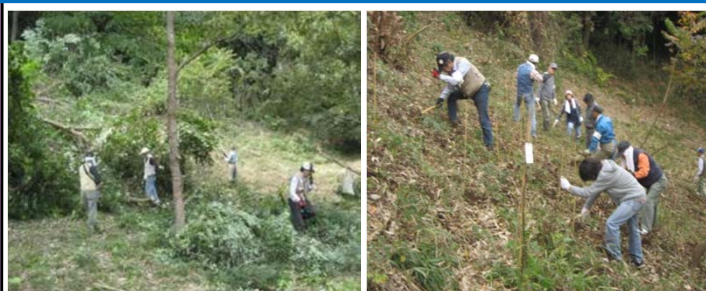
今年、木こりの会は、10周年の節目の年を通過しました。次の10年に向けて活動を継続するためには、時代に合った活動プログラムと構成メンバーの新陳代謝が必要です。

ボランティア活動は、メンバーの自主性によっていますので仲間と一緒に働く喜び、社会の役に立てる達成感、そして休憩時間にお茶をしながらおしゃべりをする楽しさ、などを大切にして活動を続けてまいります。

木こりの会の詳しい活動内容はインターネットの「木こりの会」で検索いただければホームページをご覧ください。(斉藤)

“ふるさと肉瘤”ヤマユリ再生の峠が見えてきた!

岡上地区



4年前、平成19年から梨子ノ木緑地ボランティア「NPOかわさき自然と共生の会」のみなさんと協働して、試行錯誤しながらヤマユリの再生を進めてきました。今年は、当初の目標の総仕上げ。左の写真のように植栽地の間伐整備を行い、球根30球、木子60球などを追加植栽。種も1000粒程度蒔きました。

東西約150m奥行き約30mもの東向き斜面は、将来、自生地として開花時の散策に好適な場所になることが期待されています。今後は、ツル草除去の管理に集中しながら、適宜、殺菌殺虫にも心がけて行く予定です。

王禅寺地区



▲下麻生まつの木緑地

▲王禅寺すぎのき緑地

王禅寺地区では4年前より地元の「木こりの会」のみなさんと協働して活動を進めています。この地域も試行錯誤しながら、取り組んできましたが、当面「下麻生まつの木緑地」と「王禅寺すぎのき緑地」の2か所に活動が落ち着いてきました。「下麻生まつの木緑地」では、生育が芳しくなく、一時期あきらめかけたのですが、今年、見事に元気な生育ぶりに変わってきました。この秋、追加30球を植栽。

「王禅寺すぎのき緑地」は、杉林の東南急斜面の緑地でヤマユリには好適地ですが、カラス瓜の球根が多量にあり、順次、堀取り作業を進めると共に日差しを良くするために杉の枝打ち作業を行い、当面の整地課題が終了しました。この緑地には、20球を追加植栽。

万福寺地区



▲濱野周泰東京農大教授

▲万福寺おやしろ公園での植栽

「万福寺おやしろ公園」では、「新百合山手公園管理運営協議会」と協働して活動しています。当植栽普及会で、これまで植栽した緑地の中で最良の場所といえます。2年前に植栽した株が見事に生育し、7月の開花時に芳しく美しい大輪の花畑となり、散策者を感動させました。この秋は、ブッシュで覆われた東側の緑地を整備して、20球を追加植栽。課題であった境のロープ張りとか看板立ても設置でき植栽地としての体裁が整いつつあります。

11月末、当管理運営協議会主催の「グリーンズフレンドフェア」での特別講師・濱野周泰東京農大教授からツル草駆除の方法の個人教授を受けましたので、来春には、早速、試してみる予定です。

細山地区



▲授産学園緑地

▲川崎授産学園

細山地区の「授産学園緑地」は、クヌギが生い茂る緑地ですが、学園との東側境を日当たりを良くするために少しずつ枝おろしを進めたところ、今年も、見事に開花してくれました。今年、10球を追加植栽。ところが、12月のはじめ、さらなる枝おろしに緑地にやってきた時の朗報。学園に挨拶に伺ったところ、新学園長に代わっており、学園内の南側の東向き斜面をヤマユリ植栽に使ってもよいとの話に発展。左の写真のような北側に学園を見る200㎡はあるチガヤの茂る斜面。学園長から植え替えるように助言され、早速、生育の様子を調べるために球根10球と木子を5、60球を植栽。今後は楽しみな場所です。

▲各地区の植栽活動経過と課題

会員募集

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら緑地で汗を流しませんか。

年会費：1,200 円

定例会議：原則、毎月第二木曜日午後

会場：交流館やまゆり

植栽活動：指定の各緑地（月に1回～2回）

★問合せ・連絡先：当会会長（事務局）貞本 勉

TEL：090-7175-4995

E-mail：tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

1月～3月の主な予定

1月～3月 植栽地の整地作業（6カ所）

1月～3月 定例会（毎月第二木曜日午後）

3月 来期事業計画の修正、年次総会の準備